

環境保護印刷推進協議会(E3PA)

15年の歩み





「創生期（平成17年度～平成22年度）」

- （2005年度）印刷製品による環境保護をめざして創立 4,5P
- （2006年度）「環境経営」を理念に印刷業界で存在示す 6,7P
- （2007年度）着々と事業内容を拡充し、認知度高める 8,9P
- （2008年度）展示会でPRに努めグローバルにも展開 10,11P
- （2009年度）認証登録基準を最高レベルに引き上げる 12,13P
- （2010年度）CO₂削減への貢献でさらなる前進はかかる 14,15P



「定期（平成23年度～平成29年度）」

- （2011年度）新たな認証制度を制定しステップアップ 16,17P
- （2012年度）付帯サービスの充実で不動の体制づくり 18,19P
- （2013年度）確立した事業基盤に立ち活動範囲広げる 20,21P
- （2014年度）創立10周年を迎える「印刷環境憲章」採択 22,23P
- （2015年度）「環境にやさしい印刷メディア」を訴える 24,25P
- （2016年度）プランディング価値で（CSR）の実現を 26,27P
- （2017年度）各地の併催セミナーで活動の成果を紹介 28,29P



「成熟期（平成30年度～令和元年度）」

- （2018年度）基幹事業に「SDGs」を据えて集中的に 30,31P
- （2019年度）「SDGs」の理念を顧客企業と共有する 32,33P

※平成2005年度～2016年度に関しては『E3PA10年の歩み』（既刊）より抜粋、再録しています



ご挨拶

2020年11月吉日

『15年の歩み』の刊行にあたり

環境保護印刷推進協議会 会長 松浦 豊

環境保護印刷推進協議会が創立15周年を迎えました。これもひとえに、会員の皆さま方の平素からの協議会の運営に対する格段のご理解とご協力の賜と厚く御礼を申し上げますとともに、当協議会を陰ながら支え、応援をいただいている方々各位のご厚情に感謝を申し上げます。

2005年度（平成17年度）に、業界有志により「印刷会社が環境保護に対して、自分たちができる範囲で、できることを着実に行っていこう」という考え方で、自己適合宣言マーク「環境保護印刷マーク《クリオネマーク》」を制定し、環境保護をめざす任意団体【環境保護印刷推進協議会】として産声をあげ、スタート致しました。

「刷版へ印刷」という本工程に焦点を当てて、“空気”と“水”を汚さない製造方法を確立し、環境保護を実現していきたいという願いからでした。以来、協議会の会員の皆さまはく環境貢献＞の考え方を顧客に伝え、その企業姿勢をビジネス戦略として鋭意取り組んでまいりました。

この間、協議会は環境保護を理念とする業界団体

として印刷産業に確実に根を下ろし、それなりの役割と義務を果たしてきたと自負いたしております。会員の皆さまのご理解、ご努力と温かいご支援の賜と御礼を申し上げます。

ここに、創立15周年を迎えるにあたり、これまでの当協議会の事業活動のあらましを記録した小冊子『15年の歩み』をまとめました。ここにまとめました内容は、業界団体活動としては短い歴史のひとコマであり、印刷業界の長い歴史のなかで、印刷企業が関わった「環境経営」をはじめく環境貢献＞など多種多彩な環境に関する事業の実績、成果の「報告書」としてはごく一部に過ぎないことを申し添えたいと存じます。

最後に、今日の「新型コロナウィルス感染拡大」のなか、これまで経験したことのない経済の低迷、企業経営の危機に直面しビジネス活動の危惧が囁かれるなか、私たちの事業活動も新しい「明日」に向か、「環境経営」に有益なく環境貢献＞の情報の提供と共有化に向けた事業活動の必要性を痛感いたしております。今後とも、さらなる格段のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



■<2005> 平成17年度 印刷製品による環境保護をめざして創立

環境保護印刷「クリオネマーク」とは?

◎ Non-VOC

澄んだ「空気」のため揮発性有機化合物(VOC)をなくす、または最小限に抑える

◎ Non-DRAIN

きれいな「水」のための廃液・排水を出さず、最小限にとどめ、回収・焼却する

◎ 地球にやさしい印刷方式を基準に設定

3つのステータスで認定
「環境保護印刷マーク」を表示する



ゴールドプラス



ゴールド



シルバー



『クリオネマーク』は、流水の天使と呼ばれ、オホーツク海のきれいな水に生息する【クリオネ】をシンボルマークにした。

4

大気汚染防止法が改正されて、工場や事業所から排出されるVOC(揮発性有機化合物)の量規制が義務づけられ、印刷業界においてもVOC低減を可能にする具体的な対策を迫られる状況となりました。水質汚濁防止法を遵守して廃液・排水を出さないことと合わせ、印刷物の製造工程でゼロエミッションを達成することが、サステナブル社会の実現に向けた印刷会社の社会的責任<CSR>となって浮上しました。

このような時代背景のもと、「空気」と「水」を汚さない製造方法によって、刷版～印刷という本工程で環境保護を実現していくことを、環境保護印刷推進協議会を発足させたのです。当時掲げた基本目的は「環境保護印刷に関する技術の向上・普及によって、地球環境の保全と印刷の生産性向上、品質向上との両立をはかり、印刷産業全体のサステナブルな発展を推進する」というものでした。

具体的な目標として、澄んだ「空気」のための《Non-VOC》、きれいな「水」のための《Non-DRAIN》を掲げました。環境保護に適合する印刷物に表示できる自己適合宣言マーク『クリオネマーク』を作成するとともに、枚葉オフセット印刷方式を対象とする独自の「認証制度」を制定し、自ら厳格に運用することにしたのです。これによって、環境保護に関する行動規範、環境貢献の企業姿勢を示していくという趣旨でした。



「E3PAホームページ」のトップページ



当会の趣旨を説明する、松浦会長



■<2006> 平成18年度 「環境経営」を理念に印刷業界で存在示す



6

設立2年目に当たるこの年も、引き続き認証登録基準の明確化に取り組むとともに、印刷ビジネス交流展（JGAS2006併催）への出展、マーク活用についての実態調査の実施、クリオネセミナーの複数回開催、印刷業界団体への説明などによって、認証制度の一層の浸透ならびに会員拡大に力を注ぎました。

そうしたなかで特筆されるべきは、新たに、オフ輪印刷分野にも認証制度（いわゆるオフ輪バージョン）の適応を拡げたことです。新たな枠組みを設けたことにより、オフ輪を保有している中堅の印刷会社にも「クリオネマーク」を使用できる門戸が開かれ、認証制度の一層の拡張につなげることができました。VOCや廃液の排出を自主規制することを誓った会員企業に、環境貢献の意思を広く社会一般に示せる強固な基盤が確立できたといえます。

企業の社会的責任<CSR>が叫ばれるにつれ、環境問題を経営のレベルにまで“昇華”することの重要性が指摘されました。環境保護印刷推進協議会が<環境経営>という理念を採用したのも、この年でした。たんに公害防止あるいは法令遵守の域に止めず、企業の発展（ブランド化）につなげなければ印刷会社の存在意義は發揮されず、環境保護活動そのものの意味はないという考え方根底にあったのです。



印刷ビジネス交流展（JGAS2006併催）への出展



■〈2007〉 平成19年度 着々と事業内容を拡充し、認知度高める

会員企業のビジネス成果につながるような、現実的な認証制度をしっかりと運用することに心がけた結果、3年目を迎えたこの頃には、環境保護印刷推進協議会は印刷産業に完全に認知される存在となりました。発足した時点では、全社が役員企業といつていいほど極小数だった会員数も、この年度末には早くも100社を突破する(このほかに協賛会員40社)ほど、一気に拡大を果たしたのです。

前年度に制定したオフ輪バージョンを実施した
のに續いて、新たに「准会員制度」を確立しまし
た。印刷生産設備を有しない印刷関連会社であつ
ても、正会員に印刷物の生産を委託するなら会員
として迎え入れようという趣旨で制度化したもの
で、これに伴い加入の資格要件を見直したのはい
うまでもありません。

協議会の活動内容を印刷関係の方々に効果的に紹介する目的で、環境保護印刷白書「クリオネ・レポート」を初めて制作・刊行しました。また、

創立以来、回を重ねてきた講演会や「クリオネセミナー」に関しても順次開催することとし、会員企業各位への積極的な情報提供に力を注いでいます。国際総合印刷機材展(IGAS2007)の併催行事だった印刷コラボレーション展に出展したのを機に、会員の皆様が相集って情報交換し、かつ親しく懇談する「会員交流会」も開催しました。



■<2008> 平成20年度 展示会でPRに努めグローバルにも展開

<p>オフセット一枚葉印刷・UV印刷方式</p> <p>認証登録基準のご案内</p> <p>GOLDプラスクラス認証登録手順</p> <p>E3PA</p>	<p>時代に即した認証登録基準の 高度化による新基準の策定</p> <p>改定ポイント</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 VOC、CO₂を導入 2 施工溶剤・インクの低濃度化 3 ゴールド・クリオマーク登録手続 4 基本の規制し、既定内規の規制 <p>ステータス</p> <ul style="list-style-type: none"> シルバー：既存規格での実績認定 ゴールド：既存規格での実績認定 ゴールド+：ゴールドより上の実績認定 	<p>オフセット糊貼印刷・UV印刷方式</p> <p>認証登録基準</p>
--	--	---

旧「クリオネマーク」 → 新「クリオネマーク」

10

印刷産業に正式に認められる団体となったことを自信に、その印刷産業からの要請を受けるかたちで、認証登録基準を一層、厳正な内容に衣替えすることをめざしました。その一つが、対象項目に「洗浄剤」を導入することです。また、環境保護印刷推進協議会がこれまでコンセプトとしてきた《Non-VOC/Non-DRAIN》を堅持することを前提に、新基準の原案を取りまとめました。ゴールドステータスの基準を、当時の技術革新の水準に合わせて再整備しようと方向づけたのもこの時です。

また、これを機に一般消費者にもわかりやすいように「クリオネマーク」のロゴのコンセプトを表す《Non-VOC/Non-DRAIN》を《CleanAir/ClearWater》に変更してデザインを一新した。

この年の注目すべき事業は、韓国の印刷業界と連携して「日韓環境フォーラム」を開催したことです。両国間の相互交流を促進するために、まず日本側に韓国関係者を招待して懇親会を開催、当協議会が推進している環境保護事業の内容を紹介し

ました。それを受けた韓国印刷業界がソウル市内で開いた「印刷環境フォーラム」に視察団を派遣、日本の印刷産業が抱える環境問題と対応策、企業の実践例をテーマに特別講演をおこなったのです。これを皮切りに、当協議会のグローバル化が本格化し、その後実現したドイツ、中国、イギリスほか各国との交流の嚆矢となりました。

対社会的なPR事業にも積極的に取り組み、毎年12月に開催される、わが国最大級の環境展である「エコプロダクツ2008」に初めて出展ブースを設け周知徹底に努めたのでした。



エコプロダクツ2008に初めて出展ブースを設ける



■<2009> 平成21年度
認証登録基準を最高レベルに引き上げる



E3PA New Style & Rule

12

印刷関連技術の著しい向上や環境保護思想の高まりを背景に、認証登録基準の抜本的な改訂に踏み切りました。その内容は、①対象項目に「ローラー/プランケット洗浄液」を新設、②対象項目の刷版、湿し水、湿し水濾過装置に関して高度化、③VOC低減、廃液防止に加えてCO₂の削減も考慮——というものでした。洗浄剤の採用基準を認証登録の条件に組み込んだのをはじめ、すべての基準を見直し規定内容を明確化したのです。

また、グローバルな課題として関心が深まってきた「CO₂」削減にも焦点を当てたものともなっています。Non-VOC/Non-DRAINを追求すること自体、Low-CO₂を実践していることに結びつくのですが、認証基準リストに「環境負荷低減貢献」の欄を設け、工程・資機材などの項目がCO₂削減=地球温暖化抑制に寄与しているかを明示しました。

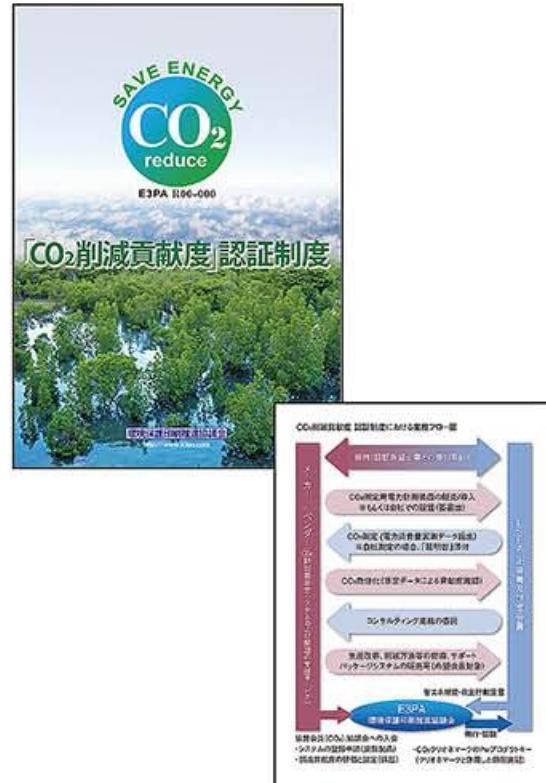
顧客企業を含む一般社会に向けてのPR活動を、《B to B》あるいは《B to C》の概念を前面に押し出して積極的におこなうようになったのも、この年からでした。

設立5年目に入ったのを機に、1年をかけて「創立5周年記念行事」を展開し、環境保護印刷推進協議会の歩みのなかで忘れられないエポックメイキングとなりました。このときの特別講演会でも「低炭素社会の実現」をテーマに掲げ、CO₂削減に関心を寄せる印刷産業界の要請に応えています。



13

■<2010> 平成22年度
CO₂削減への貢献でさらなる前進はかる



環境保護印刷推進協議会はすでに印刷産業にしっかりと根を下ろし、当初の理念に沿って、着実に事業活動をおこなってくることができました。

前年度に抜本的に改訂した認証登録基準のスムーズな移行をめざし、啓蒙・啓発に一段と力を注ぎました。と同時に、新たな課題として印刷産業界が求めていた「デジタル印刷」および「CO₂削減貢献度」にも焦点を当て、認証制度の導入について検討し始めました。「デジタル印刷」に関しては、すでに前年度から調査研究をおこなっていましたのですが、「CO₂削減貢献度」もそれと歩調を合わせることにしました。その結果、新しい付帯サービスと位置づけた実施要領をまとめるに至りました。

前年度におこなった創立5年記念行事(特別講演会)を受けて、シリーズ第2弾、第3弾のイベントを連続して企画しました。まず「日欧・印刷環境フォーラム」を開催し、ヨーロッパの企業はカ-

ポン・マネジメントをどのように実行しているのかを学ぶなど、わが国印刷業界に向けて提言する貴重な機会とすることことができたのです。ついで、CO₂対策をテーマとする公開セミナーを東京、大阪の両会場で開催しました。

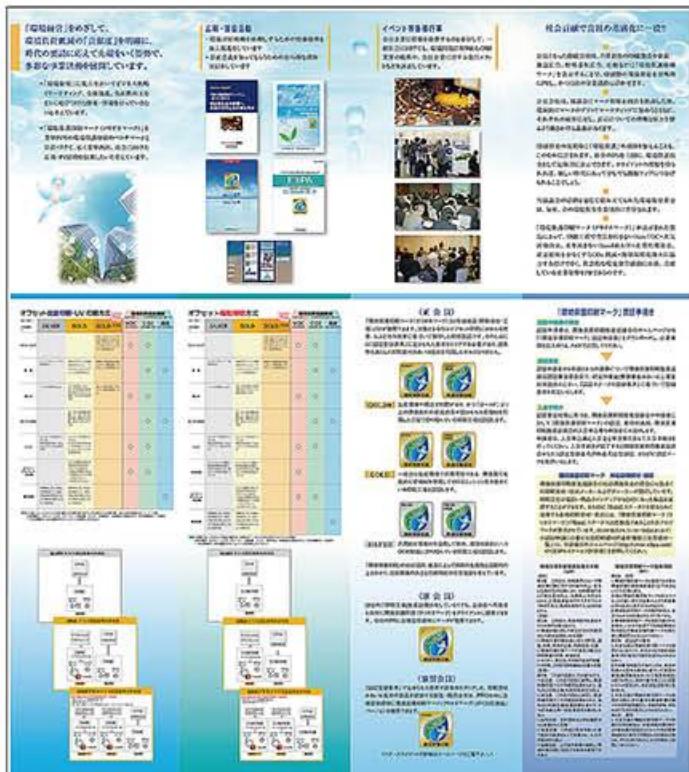
国際交流については、中国の印刷環境フォーラム、韓国の親環境セミナーにそれぞれ列席し、当協議会の事業活動の内容を紹介しています。



韓国の親環境セミナーで当会の趣旨を説明する北濃氏(ワーキングスタッフ)



■<2011> 平成23年度 新たな認証制度を制定しステップアップ



創立7年目に入ったのを機に認識を新たにしたのは、当初とは異なった状況の“第2ステージ”を迎えていたということでした。そこで、2つの「認証制度」を新規にスタートさせたほか、社会の環境ニーズに対応した多面的な“新領域”への展開をはかりました。具体的には、オフセット印刷本工程における《Non-VOC》《Non-DRAIN》をより一層厳格に実行するため、新たに設定した「認証登録基準」へのスムーズな移行をめざすとともに、会員企業に時代に即した付加価値サービスを提供していくこと、デジタル印刷およびCO2削減貢献度に関する認証制度を正式に制定しました。こう

して、先行するオフセット印刷バージョンに加えて、デジタル印刷バージョン、CO2削減貢献度バージョンからなる“三本柱”が揃い踏みしたのです。

とくに力を注いだのはCO2削減貢献度バージョンの導入でした。自主行動宣言、改善手法チェックリスト、業務フロー図などをとりまとめると同時に、制度の意義と実施の手順を詳しく紹介した導入ハンドブックを作成しています。これに関連させて、電力使用量の削減、省エネ対策の問題を取り上げ、「クリオネセミナー」の開催、その他を通じて会員企業に的確な情報を提供しました。





■<2012> 平成24年度 付帯サービスの充実で不動の体制づくり

The document cover is titled "E3PA 印刷環境宣言 The Printing Environmental Charter" and features the E3PA logo. It includes a QR code and the text "環境保護印刷推進協議会". The main body of the document is divided into six sections: 1. 環境物の削減 (Reduction of environmental materials), 2. 大気汚染の防止 (Prevention of atmospheric pollution), 3. 水利汚濁の防止 (Prevention of water pollution), 4. 生態系社会の実現 (Achievement of an ecological society), 5. グリーンエネルギー化 (Green energy conversion), and 6. グリーン印刷サービス (Green printing services). A URL at the bottom right is http://www.e3pa.com/株式会社環境保護印刷推進協議会.



18

前年度から設立当初とは異なったフェーズ（第2ステージ）に立っているとの認識のもと、新たに制定した2つの認証制度を軌道に乗せるべく努力するとともに、付帯サービスの一層の充実をはかった年でした。不動の体制を確立することを目的に、准会員を含む会員層の拡充と、搖るぎない事業基盤の構築に取り組んだのです。

デジタル印刷バージョンについては、オフセット印刷とは異なる市場分野で環境貢献できることをキーワードに、会員各位の受注機会の拡大に有效地に寄与することができました。またCO₂削減貢献度バージョンについては、導入ハンドブックを配布するなど詳細な情報提供をおこないました。CO₂削減貢献度バージョンの認証条件となっている電力使用量の削減、エネルギーの有効活用、生産改善の工夫などをテーマとした特別講演会や「エコフォーラム」を開催しました。

広報関係では、会員企業の直接の顧客を意識し

た「クリオネ B to B キャンペーン」を展開し、各社の営業活動のお役に立てる各種の媒体（販促用キット類）を集中的に制作しています。これらと並行して、新たにWeb版のインフォメーションを開設しました。印刷物や電子メールを使っておこなってきた情報提供を、さらに効果的なものにするのが狙いで、環境問題に関わる最新情報や時事ニュースを逐次発信しています。



「エコフォーラム」会場の模様



■<2013> 平成25年度
確立した事業基盤に立ち活動範囲広げる

2014 E3PA Information

http://www.e3pa.com/ Clean Air Clear Water page2014 ご来場の皆様へ

環境印刷のススメ

私たちがお届けします印刷製作物は
地球環境にやさしい印刷方式で作成されています

空気と水をテーマの認証制度
地球環境保全へゼロエミッション!!

流氷の天使クリオネ
流氷の天使と呼ばれ、
オホーツク海のきれいな氷に生息するクリオネを
ベースに変化化しています。

【クリオネマーク】は認証者・認証ラベル等
データベースにラベル登録・公開されています。

GOLD+ 環境保護印刷 正会員(枚葉印刷)
GOLD+ WEB 環境保護印刷 正会員(輪転印刷)
J 環境保護印刷 準会員

印刷製作に携わる皆様へ
CleanAir ClearWater 注目度 No.1

SAVE ENERGY CO₂ reduce CO₂削減貢献度認証

Eco-Printing Preservation Promotion Association 環境保護印刷推進協議会

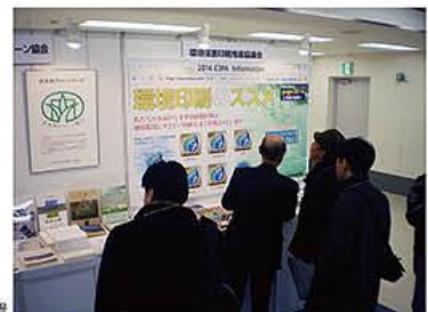
20

次年度中に当協議会が創立10年目に入るのを機に、何らかの記念行事をおこなうこととし、早い段階から具体的な内容の検討および幾つかの準備に着手しました。その象徴として取り組もうと決めたのが「印刷環境憲章」の策定でした。環境保護に努めている印刷産業全体に対する社会的理解を深めてもらうという趣旨から、当協議会がインシアチブをとって取り組むことにしたものです。

そのような考え方を踏まえ、総会併催の記念講演会、会員向け研修会「クリオネセミナー」では、「環境新時代」に企業が果たすべき社会的責任<CSR>をテーマに採り上げて改めて勉強し直しました。これらは、環境問題に関する新たな視点

を探ることに焦点を当てて企画した事業でした。この年、初の試みとして環境保護に取り組むオフ輪印刷工場を訪問する「工場見学会」を実施しました。日本オフセット輪転印刷協議会との共催によりおこなったもので、環境負荷の低減を可能にする工場運営のあり方や印刷生産方法、立地地域の環境保全など、多くの示唆を得ることができました。

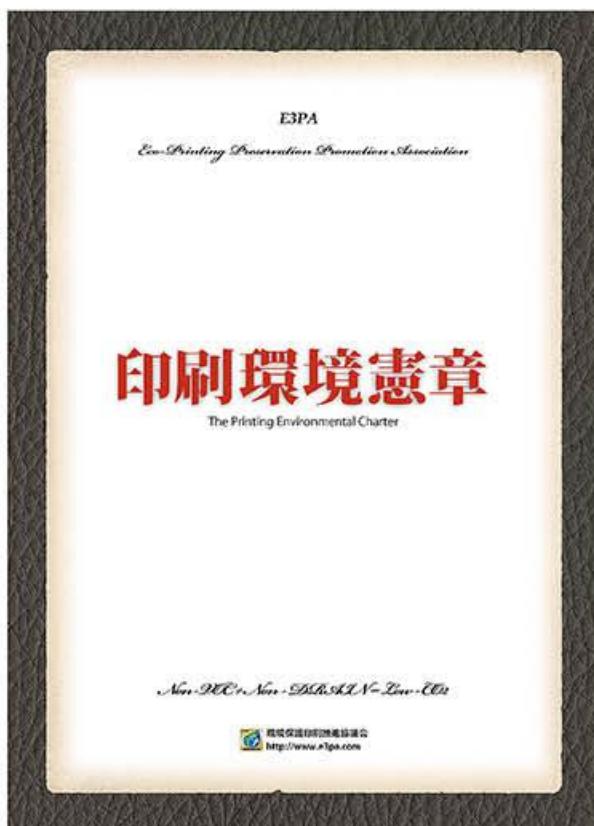
展示会への参加では、とくに「page2014」会場内に当協議会のブースを設け、参観の一般企業にデジタル印刷物の発注を要請するとともに、印刷の周辺・隣接企業に対しては准会員としての入会勧誘をおこないました。



「page2014」会場内に
当協議会のブースを設置



■<2014> 平成26年度
創立10周年を迎える「印刷環境憲章」採択



22

環境保護印刷推進協議会は、設立以来展開してきた事業の中心には終始一貫、自己適合宣言マークとして制定した「クリオネマーク」があり、広く知られる存在に育て上げた3つの「認証制度」がありました。「澄んだ空気、きれいな水」と掲げたとおり、地球環境の保全に始まり低炭素化、省エネ化に至るまでの、印刷産業が課せられた環境対策に積極的に応えてきた当協議会も、ついに創立10年目に突入しました。

印刷産業が環境保護に尽くしている姿を社会の方々に知っていただこうという趣旨から、率先して「印刷環境憲章」を策定し、創立10年記念行事に際して正式に採択・宣言しました。この憲章には、①空気と水を汚さないこと、②地球温暖化を防ぐこと、③省エネやリサイクル化を推進すること——などの重要性を訴え、そのうえで、サステナブル社会実現への参画を通じて、印刷会社の社会的責任<CSR>を果たしていく旨が盛り込まれています。

創立10年記念行事ではこのほか、第2回目に当たる「日欧・印刷環境フォーラム」を開催し、私たちが取り組むべき環境保護のあり方に関して、日欧で情報交換する機会を設けました。また別途、協議会の活動を次世代に繋げていくために、最新の環境行政について研修する「クリオネセミナー」もおこなっています。



英訳バージョン版「印刷環境憲章」



■<2015> 平成27年度 「環境にやさしい印刷メディア」を訴える



環境保護印刷推進協議会では、各種の認証制度を厳格に運営しながら、会員企業が取り組んでいる<環境経営>に有益なさまざまな事業活動をおこなってきましたが、この年は最初に「知っておきたい環境対応の新たな課題」をテーマに「気候変動リスクと人類の採択」と題する講演を聴き、これまでにない高度な切り口を探りました。

そして、採択した「印刷環境憲章」に掲げた趣旨をより一層、徹底することを目的に「提案営業ツール」その他の普及啓蒙用の媒体を作成し、官公需を期待できる各自治体の発注窓口や実際の顧客企業に向けてPRを展開しました。

並行して「印刷物は『環境にやさしいメディア』です」を標題に掲げたプレゼン資料を作成しました。これは、印刷物はIT関連、電子関連を含む各種メディアのなかでも、製作工程、使用中・使用後を通じて一段と“環境にやさしい製品”であるという事実をアピールすることによって、より多くの採

用を促すために制作したものです。

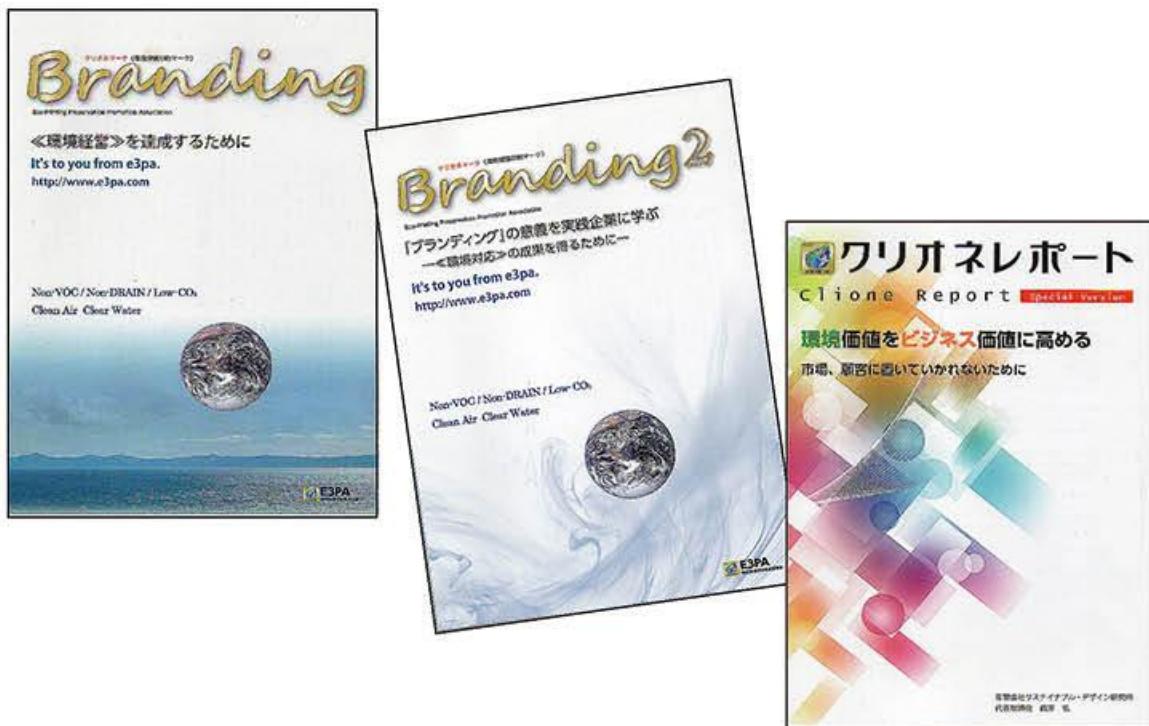
本書には、①エコ効果に関する証言 ②CO₂削減の取り組み ③省エネ化の推進 ④地球資源の有効活用 ⑤森林資源と再生紙 ⑥大気汚染と水質汚濁の防止 ⑦グリーン印刷サービスの提供―からなる、発注に際して知ってほしい7つのアングルを網羅しています。

印刷環境憲章」と合わせて関係諸官公庁、顧客企業に提供し、印刷メディアがもつエコ効果についての理解の向上に努め、受注機会の拡大につなげてきました。

このほか、「クリオネセミナー」を通じてデジタル印刷やオフ輪印刷に関する認証制度の意義を勉強し直しました。これらの普及に資するために入会案内用の各種パンフレットを全面的に改訂して、一つのファイルにまとめた「総合案内書」を作成し、「国際総合印刷機材展IGAS2015」の会場で配布したのをはじめ、あらゆる機会にPRしました。



■<2016> 平成28年度 ブランディング価値で<CSR>の実現を



26

<環境経営>を推進してきた会員企業が、より一層効果的に社会的責任<CSR>を果たせるようにと、事業計画の柱として「クリオネマークのブランディング確立」を掲げました。

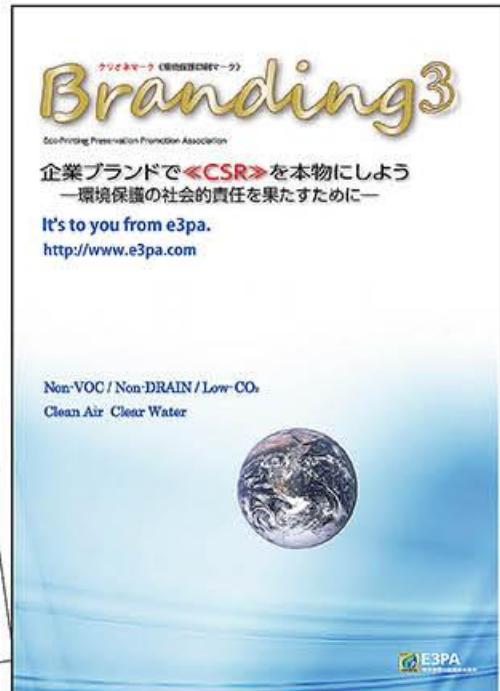
環境保護印刷マークである「クリオネマーク」がもつ<環境経営>の価値を高め、合わせて、環境保護印刷協議会および各会員企業の存在意義を内外に浸透させていくというのがその目的でした。

具体的には、「環境価値をビジネスに高める」と「印刷会社が取り組むブランド戦略」をテーマとした2つの特別講演会を連続開催しました。環境保護の価値を戦略的にビジネス価値に結び付けて<環境経営>のレベルにまで高め、印刷会社の企業ブランドを強化することの重要性を学びました。これらの講演要旨は「クリオネレポート」特別版や「クリオネセミナー」報告書にまとめ、会員企業に情報提供しました。

さらに並行して小冊子「ブランディング」1および2を編纂して、配布したことでも特筆すべきことでした。

「今こそブランディングに取り組むとき」を表題する第1号では、「<環境経営>を達成するために」を副題に、①ブランディングの考え方 ②サステナブル社会への貢献 ③クリオネマークの意義 ④企業価値の構築 ⑤印刷環境憲章の周知 ⑥環境にやさしい印刷メディアのPR ⑦プレミアム基準への対応—といった事柄を再確認しました。

また「ブランディングの意義を実践企業に学ぶ」と題する第2号では、「<環境経営>の成果を得るために」を副題に、ケーススタディーしながら①経営理念への昇華 ②企業ブランドの向上 ③顧客満足の獲得 ④取り組む心がけ ⑤提案型営業の有効性 ⑥生産改善の意義 ⑦モチベーションの向上 ⑧クリオネマークのメリット—について探りました。



プランディング活動の必要性を追求した前年度の考え方を踏襲して、「クリオネマークを環境保護印刷の“アイコトバ”に！」を旗印に「クリオネマークのブランド強化」を柱に据えた各種事業に取り組んだ年度でした。

実際に、各地で開催されている印刷関連の展示会に着目して、それぞれの併催セミナーに参加して「クリオネ特別セミナー」を実施しました。例えば仙台市で開かれた「SOPTEC とうほく2017」や札幌市で開催された「HOPE2017」において、「私たちは環境にこだわる理由があります」をテーマに、印刷物こそ環境にやさしいメディアであることの意味、小冊子「プランディング 2」を題材にした<環境経営>の成功事例を紹介しました。いずれも現地の印刷業界から一定の評価を得たところです。

小冊子「プランディング」1、2に続いて「企業ブランドで<CSR>を本物にしよう」と題した

第3号の編纂にも取り組みました。そこには副題どおり「環境保護の社会的責任を果たすために」、<CSR>を達成するのに有効な①プランディング②企業ブランド③企業活動④CSRの見方⑤ステークホルダーとの共存共栄⑥印刷会社にとっての環境テーマ⑦E3PAの認証制度⑧推進方法一を収録しました。

同じように、前年度に続く特別講演会のシリーズ第3弾を開催し、「印刷会社が取り組むべきCSR戦略」のあり方について学びました。これについても「クリオネレポート」特別版の体裁にして会員企業に情報提供しています。ここに掲載したのは、①CSRの基礎知識②トレンドと意識調査③これから CSR④ステークホルダーの定義⑤ビジネス戦略としてのCSR⑥印刷業におけるCSR視点のビジネス構築—といった各項目であり、CSRをビジネス戦略として活かすための考え方を学ぶことができたのです。



■**<2018> 平成30年、基幹事業に「SDGs」を据えて集中的に**



私たちが[SDGs]の視点で《環境貢献》しています

-2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」への取り組み-

▷Non-VOC ▷Non-DRAIN ▷Low-CO₂



ビジネスの力で「SDGs」を達成、 持続可能社会は地球環境への配慮

いま地球の未来を考えるとき、環境対策や社会問題への取り組みとして国連が掲げる「SDGs」に注目が集まっています。

わたしたち印刷企業が実現できる取り組みがあれば、それはどんなにすばらしいことではないだろうか。ビジネスの力で「SDGs」を達成し、地球環境への配慮するような「事業」が求められています。

環境保護印刷推進協議会はそんな姿勢を持ち、向き合う業界組織でありたいと考えています。

国連が掲げた持続可能な開発目標[SDGs]を実現するため、企業は高いレベルで取り組んでいます。「環境にやさしい印刷製品」の製作を通じて、企業の立場で取り組むべき課題は数多くあるのですが、それでも環境保全+社会貢献+企業活性の3拍目を達成する「E3PA」に同心団結しています。まだまだ環境保全のなかで取り組むビジネスをおこなっている印刷会社も、当事者であることを認識せざるを得ません。

環境保護印刷推進協議会では、何よりも環境保全するという意識から、私たちの活動が進捗する「7つのゴール」の実現に取り組んでいます。これらの取り組みを通して、印刷会社に認定されている「ISO14001」の認定と並んで、「SDGs」に認定を受ける「E3PA」を目指しています。このように、「E3PA」として「SDGs」とどこにみるか環境保全に取り組んだ結果、私たちが運営する「E3PA」は、環境保護協議会として「SDGs」を実現することができ、そして、自らの行動で「サステナブル社会の実現に貢献」を続けられることであります。

このように「SDGs」で環境貢献しよう

SDGsとは、国連が提唱する世界共通の目標で、2030年までに持続可能な世界を実現するための17の目標です。SDGsは、持続可能な開発目標とも呼ばれており、SDGsの実現に向けた取り組みは、印刷会社がこれまで以上に積極的に行なってきました。SDGsの実現に向けて、企業の立場で取り組むべき課題は数多くあるのですが、それでも環境保全+社会貢献+企業活性の3拍目を達成する「E3PA」に同心団結しています。まだ環境保全のなかで取り組むビジネスをおこなっている印刷会社も、当事者であることを認識せざるを得ません。

環境保護印刷推進協議会では、何よりも環境保全するという意識から、私たちの活動が進捗する「7つのゴール」の実現に取り組んでいます。これらの取り組みを通して、印刷会社に認定されている「ISO14001」の認定と並んで、「SDGs」に認定を受ける「E3PA」を目指しています。このように、「E3PA」として「SDGs」とどこにみるか環境保全に取り組んだ結果、私たちが運営する「E3PA」は、環境保護協議会として「SDGs」を実現することができ、そして、自らの行動で「サステナブル社会の実現に貢献」を続けられることであります。

環境保護印刷推進協議会は、この年を境に再び原点に返り「環境保護印刷マークの発行・運用機関としての性格を強めること」としました。これは、認証制度の制定と普及をはかってきた**創生期**(平成17年度～22年度)、<環境貢献>の実際を学んできた**定期**(平成23年度～29年度)を経て、協議会として新たな方向性と役割を見出すべき**成熟期**(第3段階)に入ったとの認識に基づくものです。「クリオネマーク」の意義と認証制度の維持をはかりながら、環境保護活動を通じて印刷会社に課せられた社会的責任<CSR>の達成度を引き上げていこうと、新たな歩みを始めています。

実際の活動内容についても基幹事業に集中的かつ積極的に取り組んでいくこととし、その拠りどころとして国連が採択している持続可能な開発目標[SDGs]に着目しました。環境保護に関する各ゴールに印刷会社として協力していく姿勢を打ち

出したのです。[SDGs]は顧客企業も重視している共通のテーマであり、これを根底に置いた<環境貢献>は会員企業が実行中の<CSR>のレベルを高め、延いては印刷ビジネスの発展にも寄与するという考え方方が根底にあります。

まず手がけたのは、日本自然保護協会との共同編纂で社内研修用の小冊子「[SDGs]の視点で環境貢献しよう」を制作し、会員企業に配布したことでした。本誌には、①企業が果たす役割と責任②企業として取り組むポイントとメリット③企業ブランドの土台④効果的に実行する方法⑤顧客の期待に応える決意—といった内容を盛り込みました。これと同時に、周知用のポスターも作成しています。紙面では関連する7ゴールについて会員企業が取り組んでいる方向と決意を紹介し、環境保護印刷が[SDGs]の精神に則った施策であることを内外に訴えました。



■**(2019) 令和元年度 「SDGs」の理念を顧客企業と共有する**

ご発注に際してお客様にご理解いただきたいこと

私たちが「SDGs視点」で環境貢献しています

E3PA
環境保護印刷推進協議会
Eco-Printing Preservation Promotion Association

クリオネレポート
Cision Report Service version

「中小企業にとっての SDGs」
～経営への実装とその取り組み～

32

基幹事業に絞って集中的に取り組んでいくという新たな考え方のもと、前年度に引き続いて国連が採択した持続可能な開発目標[SDGs]に焦点を当て、印刷会社が果たすべき社会的責任(CSR)のレベル向上に鋭意努めました。

最初に、総会併催の記念講演会で「中小企業にとってのSDGs～経営への実装とその取り組み～」と題する講演を聴き、その講演要旨を、「クリオネレポート」特別版としてとりまとめ会員各位に送付しました。次いで「ご発注に際してお客様にご理解いただきたいこと—私たちが「SDGs視点」で環境貢献しています」を表題とする顧客向け提案営業用の小冊子を制作しました。

「[SDGs視点]で環境貢献しよう」(社員研修用)のシリーズ第Ⅱ弾、「印刷物は「環境にやさしいメディア」です」(提案営業用)の姉妹編に相当するものです。

本冊子では、環境保護を[SDGs]の柱に据えて、関連する7ゴールの実現に協力していることを強調しました。E3PAが重視する〈澄んだ空気〉と〈きれいな水〉、CO₂削減、森林再生はもちろん、最新の印刷技術の採用によって「高い生産性で働きがいを」といった[SDGs]が掲げる根源の理念にも触れています。前年度制作の周知用ポスターに準じて、7ゴールの目標と意義を網羅したチラシも合わせて制作し、内外に配布しました。

一方、5年後を見据えた当協議会のあり方、組織運営の基本の方針について検討を重ねた年でもありました。平成30年度におこなった規約(会則)改定により「環境保護印刷マークの発行・運用機関」として再出発していますが、そのためには、クリオネマーク管理委員会や事業推進委員会の新設、業務内容を見直したうえでの事務局体制の強化が必要だとする方向性が打ち出されたのでした。

環境保護印刷推進協議会はサステナブル社会の実現に向けてさまざまな活動を行っています



34

新しい「明日」に向け「環境経営」に有益な〈環境貢献〉の情報の提供と共有化に努めます



This section displays 12 promotional materials from E3PA, including:

- 日欧・印刷環境フォーラム (Forum on Europe and Environmental Protection in Printing)
- 私たちは[SDGs]の視点で『環境貢献』しています (We contribute to the environment from the perspective of [SDGs])
- オフセット環境対応 (Offset Environment Response)
- デジタル印刷認証制度でできる[環境貢献]の新戦略 (New Strategy for Environmental Contribution through Digital Printing Certification)
- Branding3 (Branding3)
- クリオネレポート (クリオネレポート)
- 私たちは[SDGs]の視点で『環境貢献』しています (We contribute to the environment from the perspective of [SDGs])
- クリオネレポート (クリオネレポート)
- (CSR)を完璧に実現するために「SDGs視点」で環境貢献しよう (Achieve perfect CSR by contributing to the environment from the SDGs perspective)
- ご注文に際してお客様にご存知いただきたいこと (Information for customers who have heard about our order)

35

環境保護印刷推進協議会は



創立15周年を迎えました

Eco-Printing Preservation Promotion Association
Web: www.e3pa.com / E-mail: info@e3pa.com



E3PA 環境保護印刷推進協議会

検索

